

(使用状態の例)

P-500AL-3 の特徴

- 自転車を上下に並べることで1台分のスペースに2台を収容可能
- K字型脚による自立式スタンドのため部屋のどこにでも設置可能
- 片側ずつ角度を変えられるアーム構造によりあらゆるフレーム形状にフィット
- 新型アルミ製クランプ採用により、簡単かつしっかりとクレードルを保持
- 支柱は軽量で錆びないアルミ製。1本タイプにより上側クランプの位置も自由に設定可能
- フックは自転車を掛けやすいロープロファイルタイプ。フレームを傷つけない樹脂パッド仕上げ。最大70mm径までに対応
- 最大荷重50kgまで

⚠ 注意していただきたいこと

- 通常の2輪自転車専用です。タンデム車やリカンベント、ロングテール車ではお使いいただけない場合があります。
- 必ず平坦で水平な床の上に設置してください。また各脚のアジャスタは正しく調整し、4ヶ所の接地点が同時に床に接するようにしてください。
- 上側クレードルにだけ自転車を掛けるときは重心が高くなるため、転倒させないように注意してください。
- 必ずトップチューブだけで掛けてください。
- クランプはアルミ製で軟らかいため、クレードルをクランプに止めるボルトはあまり強く締め込みすぎないでください。また必ずまっすぐにねじ込んでください。
- クレードルを確実に固定するため、クランプのボルトの締め込み順序は正しく行なってください。
- 転倒による事故を防止するため、できるだけ背面が壁になる場所に設置してください。
- 同じく転倒防止のため、オプションの各種アタッチメントは支柱背面には装着しないでください。

お問い合わせ先

＜販売元＞

株式会社 深谷産業

〒462-0062 名古屋市北区新沼町150

Phone (052) 909-6201

Fax (052) 909-6212

Web www.fukaya-sangyo.co.jp

＜製造元＞

株式会社 箕浦 (営業部/カスタマーサービス)

〒503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸1197-1

Phone (0584) 27-3131 (営業) / 27-3132 (サービス)

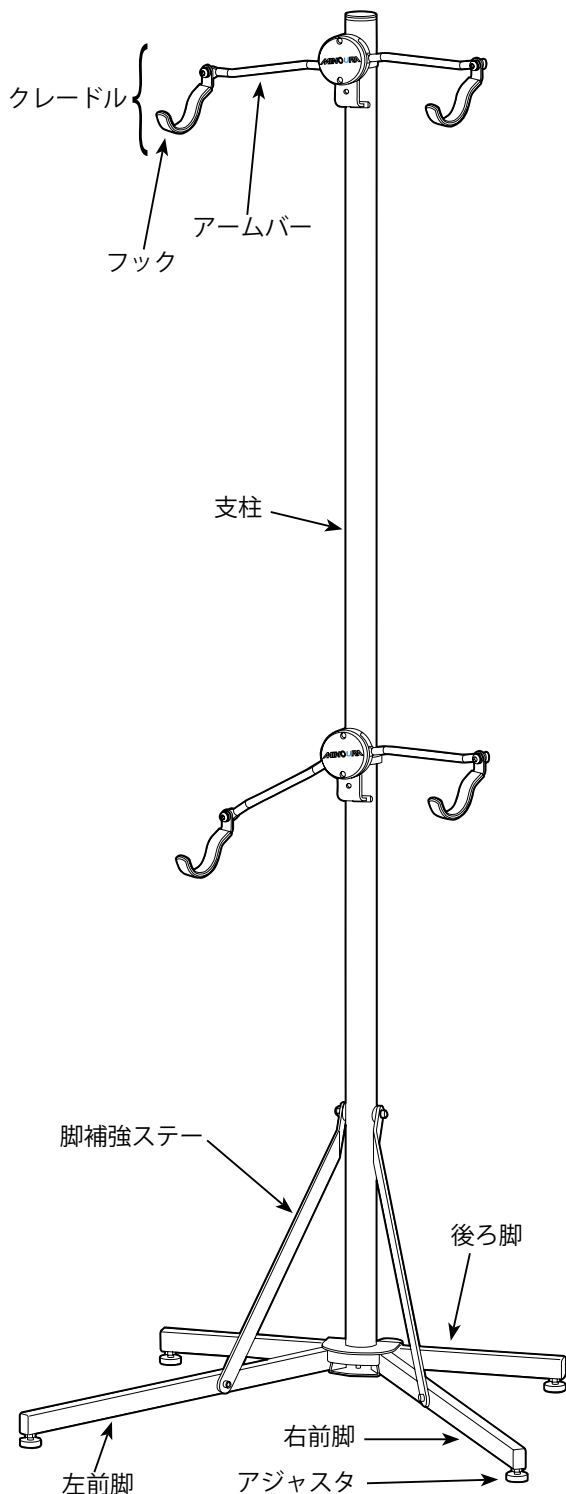
Fax (0584) 27-7505 (営業) / 27-4258 (サービス)

Email infodesk@minoura.jp (CS)

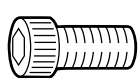
Web www.minoura.jp

組み立て方や使い方についてのご質問は、まず最初にこの商品を購入したショップにお問い合わせください。もし万一部品欠品などがありましたら弊社カスタマーサービスにまでご連絡ください。

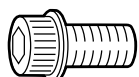
P-500AL-3 の組み立て方



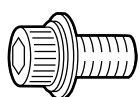
ボルト形状の違いと呼称



Aタイプ
ボルトのみ



Bタイプ
スプリングワッシャ付



Cタイプ
平ワッシャとスプリングワッシャ付

<知っておいてもらいたいこと>

この商品に使われているナットは「ナイロンナット」といって、ボルトが緩んでこないようにナイロン製のリングを封入したタイプを採用しています。このナイロンナットは指だけでは締まりません。必ずスパナを使用して正しく絞めつけてください。

ボルトの長さは、頭を除いたネジ部分（胴体部分）の寸法のことを示します。
例） M6x35 = ネジ径が 6 ミリで胴体部分の長さが 35 ミリあるということ

組み立てに必要な工具

M5 六角レンチ (添付します)	1 本
10mm スパナ (添付しません)	1 本
13mm スパナ (添付しません)	1 本

1

まず最初に脚取付板に左右の前脚を取り付けます。

前脚を逆 V 字型に置きます。
角パイプ製の脚のそれぞれ内側に脚補強ステーがあるようにしてください (図 A)。

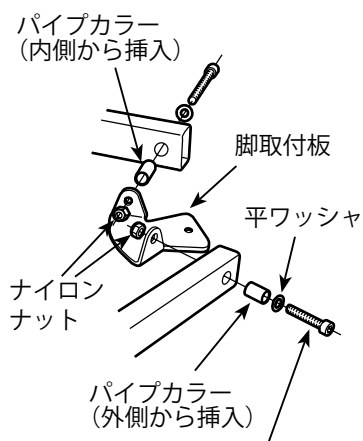
角パイプの脚は左右いずれも同じものを兼用して使用していますので、固定用ボルトを通す孔はいずれも右側が大きく、左側が小さくなっていることを確認してください。

<右脚>

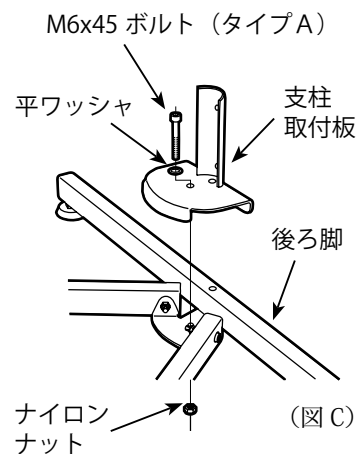
外側の大きい方の孔からパイプカラーを挿入し、そこに平ワッシャを通した M6x35 ボルト (タイプ A) を通し、脚取付板を通してからナイロンナットをねじ込んで締め込む (図 B)。

<左脚>

まず内側の大きい方の孔からパイプカラーを通しておき、次に反対側 (外側) の小さい方の孔から平ワッシャを通した M6x35 ボルト (タイプ A) を通し、脚取付板を通してからナイロンナットをねじ込んで締め込む (図 B)。



M6x35 ボルト (タイプ A)
(図 B)



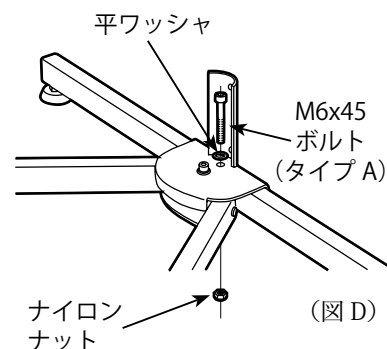
M6x45 ボルト (タイプ A)
(図 C)

2

前脚を装着した脚取付板の後ろのスペースに、アジャスタを下にした状態で後ろ脚を置き、K 字型に配置します。その上から支柱取付板をかぶせ、手前側 (中心側) の孔に平ワッシャを通した M6x45 ボルト (タイプ A) を挿入し、ナイロンナットで仮止めします。(図 C)

3

もう 1 本の M6x45 ボルト (タイプ A) に平ワッシャを通し、後ろ側の孔に挿入して後ろ脚を貫通させ、ナイロンナットでしっかりと締め付けます。手順 2 の手前側のボルトもここでしっかりと締め込みます (図 D)。



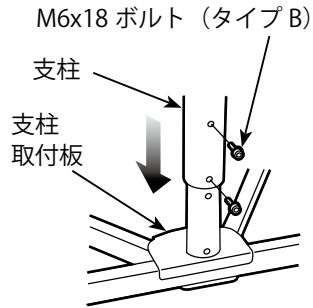
M6x45 ボルト (タイプ A)
(図 D)

4

脚に支柱を立てて固定します。支柱は2つ孔のある方が下になります。

支柱取付板の湾曲した金具が支柱の中に入るようにして支柱を差し込みます。支柱取付板の金具が支柱の外側にあるのは間違いです。

続いて支柱と支柱取付板とをM6x18 ボルト (タイプB) 2本で固定します (図E)。



(図E)

5

次に前脚と支柱とを連結します。

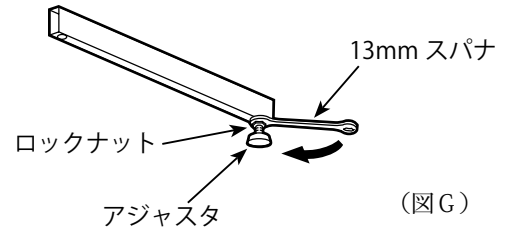
脚補強ステーを2本とも支柱の方に持ち上げ、支柱の中間にあいている孔のところまで移動させます。このとき、脚補強ステーの捻られた先端がお互いに平行になることを確認してください。

M6x70 ボルト (タイプA)、平ワッシャ、樹脂ワッシャ、ナイロンナットで支柱に取り付けます。樹脂ワッシャはいずれも支柱と脚補強ステーとの間に挟まれ、アルミ製支柱の傷と変形を防ぐのに使われますので、忘れずに装着してください (図F)。

6

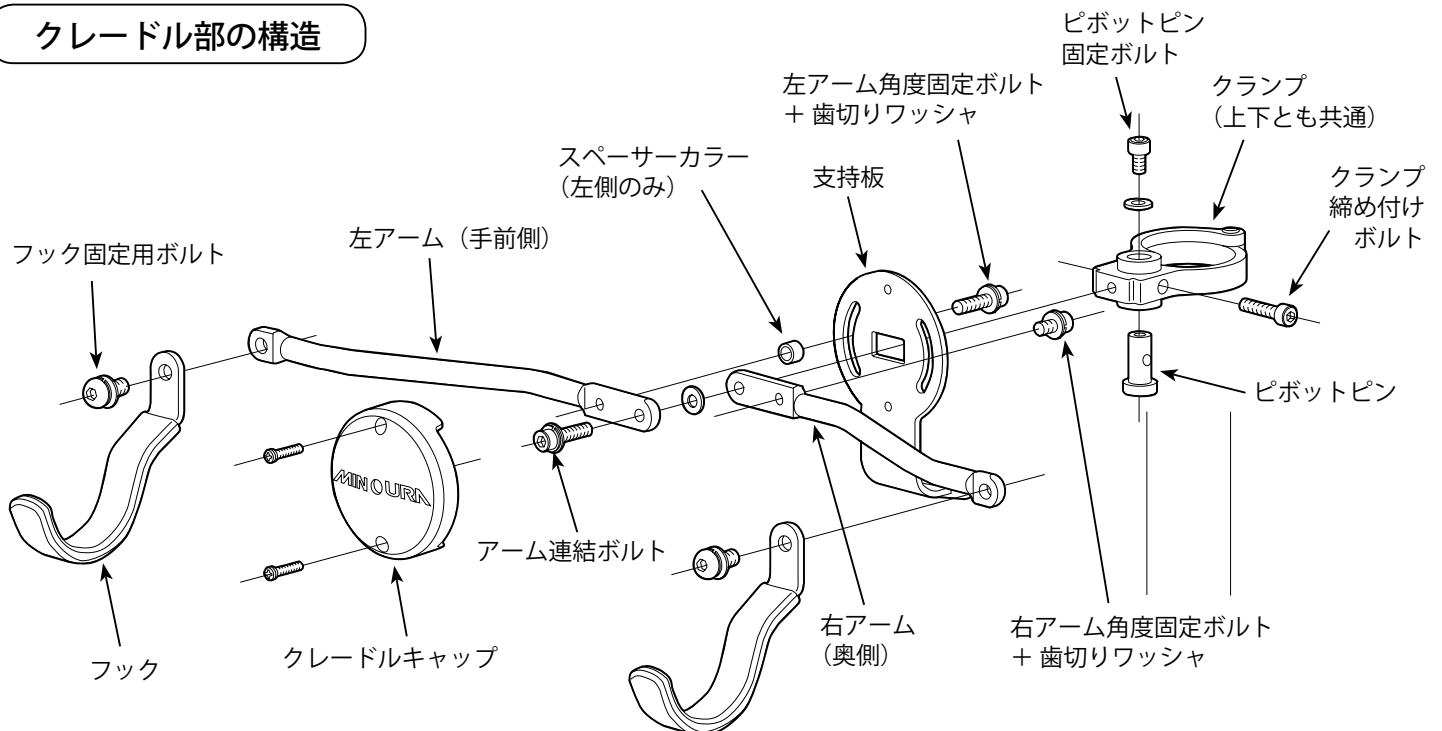
このスタンドは背が高いので、4点の脚先は同時に床面に接ししっかりと荷重を支えていなければなりません。それには各脚の先端にあるアジャスタの長さを正しく調整してやることが重要です。

アジャスタを回し、スタンドががたつきなく立つように調整してから、ロックナットを脚パイプの方にいっぱいねじ込み、13mm スパナで締めこんで固定します (図G)。



(図G)

クレードル部の構造

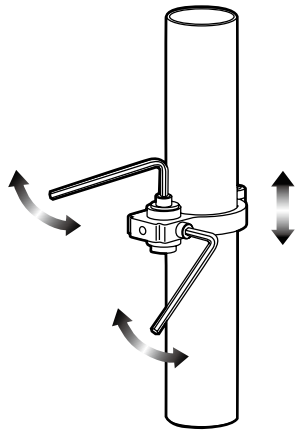


- クレードルは上下とも完全に共通です。どちらを使用しても同じです。
- P-500AL-3 のクレードルに使用しているアームは、バイクタワー 10 のものとは異なり、曲がっているタイプとなります。これはできるだけ自転車を支柱から遠ざけ、ペダルと支柱とが干渉してしまうことを防ぐためのものです。同じものは「バイククレードル 4」の名称で別売もしています。

クレードルの装着のしかた

1

クランプはあらかじめ支柱に仮止めされています。クランプを緩めてから好みの位置に移動させます。クレードルは支柱のどこにでも固定可能ですが、P-500 においては必ず正面に取り付けてください。



クランプを移動させるには、クランプ締め付けボルトとピボットピン固定ボルトの両方を M5 六角レンチで緩めてから、クランプを静かにスライドさせて行ないます。



クランプ締め付けボルトを緩めただけではクランプは動かない場合があります。必ず両方とも緩めてください。



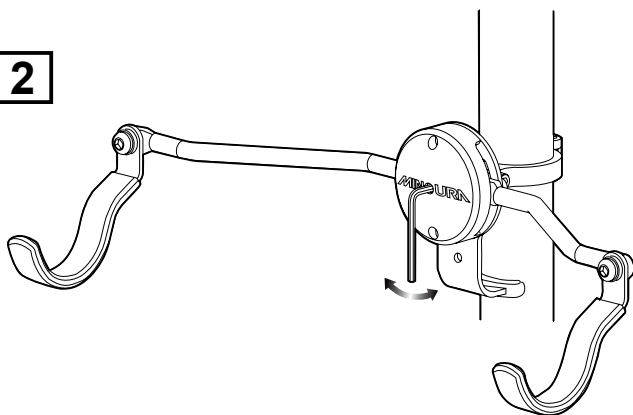
下支柱のクランプは支柱に直接触れていますので、十分に緩めないままスライドさせると支柱に傷を付けてしまう恐れがあります。



クレードルは必ず支柱の正面に取り付けてください。斜めに取り付けるとスタンド全体のバランスを損なう原因となります。

移動させたあとは、両方のボルトともしっかりと締め付けておきます。

2



半組みしてあるクレードルにフックを取り付けます。フックはアームの手前側に装着します。

次にクレードルをクランプに取り付けます。クレードル裏側を見て、支持板の中心にある四角孔をクランプの長方形の突起部に差し込み、がたつきがなくなるまで中心のアーム連結ボルトをいっぱいねじ込んでクランプに固定します。



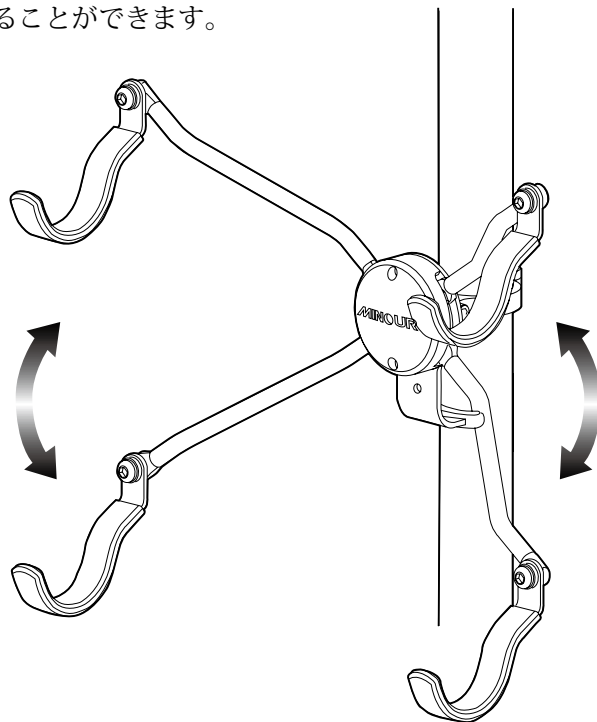
アーム連結ボルトが回しにくい場合は、クランプのボルトを2本とも軽く緩めてやるとスムーズに回せる場合があります。



アーム連結ボルトは必ず最初は手でねじ込んでください。少なくとも3回転以上手でねじ込んでから初めて工具を使うようにしてください。最初から工具を使用するとクランプのねじ山を壊してしまう恐れがあります。

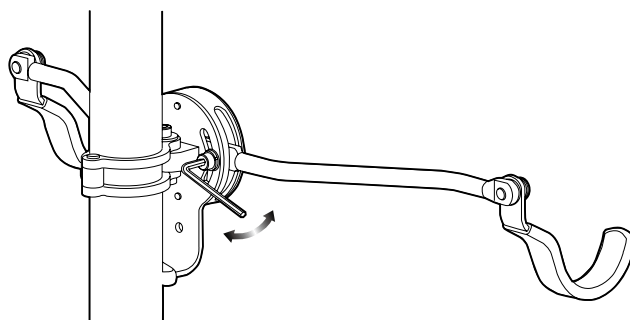
3

搭載する自転車のフレームサイズや形状に合わせて、アームは片側ずつ上下それぞれ最大 35 度の範囲で角度を変えることができます。



アームの角度を変えるには、まず中心のアーム連結ボルトを少し緩めてから、それぞれのアームの背面にある固定ボルトを緩め、アームを手で動かします。

角度調整が終わったら背面の固定ボルトと中心のアーム連結ボルトを再びしっかりと締め付けておいてください。



アームを両方とも水平より上げた状態で自転車を搭載することはお勧めできません。より多くの荷重が掛かる方が水平よりも下になるようにすることが安全面では有利です。



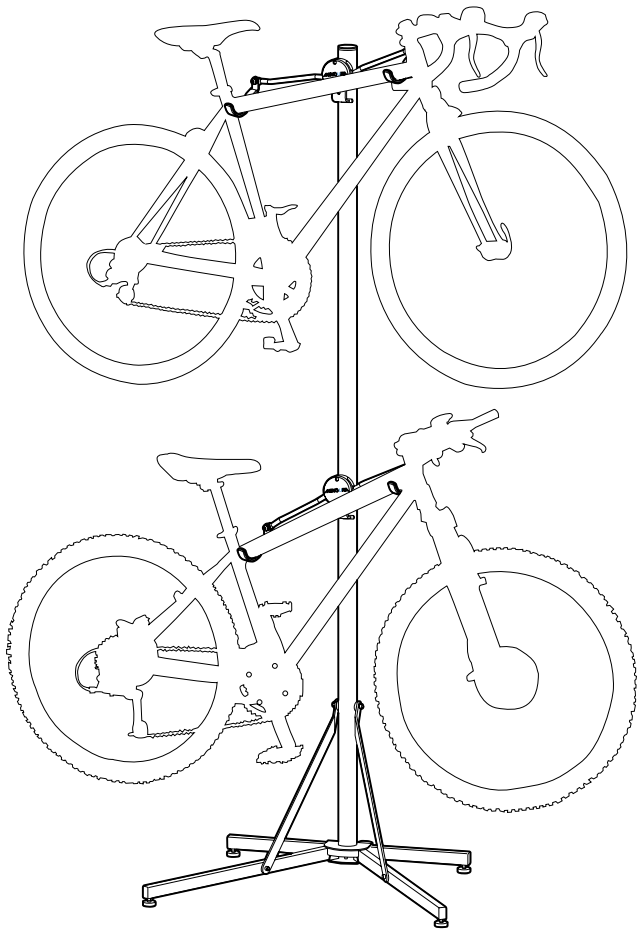
角度調整後にボルトをしっかりと締め付けておかないと、使用中にアームが垂れ下がってきてフック間隔が狭まり、最悪の場合フックから自転車が外れて脱落する恐れがあります。

自転車を掛ける

P-500AL-3 に自転車を搭載するには、フックをトップチューブの各フレームパイプ交差部の内側に掛けます。フック同士の間隔はできる限り広くした方が安定性が増します。

一般的なダイヤモンド型フレームではトップチューブのみを両方のフックで掛けますが、トップチューブの傾斜のきついスローピングフレームやミキストフレームなどではトップチューブだけだと自転車が滑ってしまう恐れがあるため、シートチューブとシートステーとの交差部に掛ける場合もあります。

いずれにしても、最も安定する場所で掛けてください。



自転車を前上がりの姿勢にすると、前輪の重さでハンドルが勝手に切れ込んできて、ブレーキレバーがフレームに当たったり、周囲のものを引っかけたり、指などを挟んでしまう恐れがあります。

この問題を防ぐためには、自転車をやや前下りの姿勢にするか、あるいはダウンチューブと前輪とをストラップなどで結んで動かないようにする必要があります。

各自で工夫をお願いします。

クランプの再装着のしかた

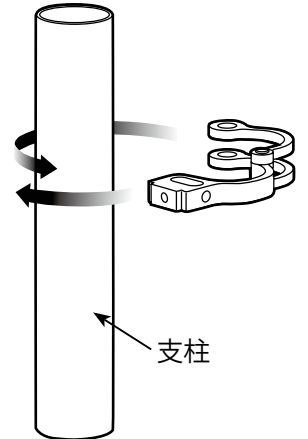
支柱にあらかじめ装着してあるクランプは基本的に外す必要はありませんが、オプションの追加などでクランプを分解し取り付けることもあります。

クランプには方向の指定がありますので、以下の説明に従って正しく取り付けてください。

向きを間違えるとしっかり固定できずに自転車をずり落ちさせたり、部品の破損を招く場合があります。

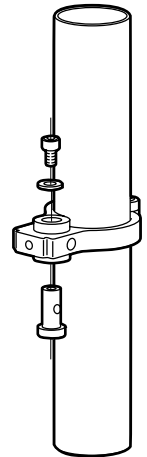
1

まず分解したクランプを支柱に巻き付けます。このときクランプの1本アーム側が向かって右側に、2本アーム側が向かって左側になるようにします。



2

重ね合わせたクランプの下側から、3つの孔すべてを通るようにピボットピンを通し、上から平ワッシャを通したピボットピン固定ボルトを軽くねじ込みます。



ピボットピンを上から通してしまうと、六角レンチで固定ボルトを回せなくなってしまいます。



ピボットピン固定ボルトは今はまだ完全には締め込まないでください。次の作業が行えなくなってしまいます。

3

ピボットピンを回転させ、ピンの側面にあるネジ孔をクランプ右側の孔に合わせます。

この状態でクランプ締め付けボルトをピボットピンにねじ込みます。

クランプを固定するには、まず最初に側面のクランプ固定ボルトをねじ込んでクランプを締め込み、続いて縦のピボットピン固定ボルトを締めこんでしっかりと固定させます。

